

聖書箇所：エペソ2：11～22

タイトル：隔ての壁を打ちこわす

テーマ：ユダヤ人と異邦人之间にあった隔ての壁をイエス・キリストが打ちこわし両者の間に平和を実現された。この隔ての壁が何であったのか。不可能とも思える御業をイエス・キリストが成し遂げてくださったのに、現実の教会の中にいつしかできてしまった隔ての壁を、私たちは打ちこわすことができるのか。

はじめに：

\*前後関係——パウロはこのエペソ人への手紙1章で「教会」が何であるかを語り、私たちがどのようなところから、どのような方法で救われたのかを2章で語っている。そして、かつては救いとは無縁だった異邦人がどのような恵みを受け、その立場が変わったかをここで語ろうとしている。そして、「教会」の奥義を告げている。

\*異邦人の立場

- ・ユダヤ人からは無割礼の者と呼ばれていた。
- ・キリストから離れ、選びの民であるユダヤ人からは除外され、
- ・神がユダヤ人に与えた約束の契約とは無関係な他国人
- ・この世にあって、望みもなく、神もない人たち

\*ユダヤ人の立場

- ・神に選ばれた民、アブラハムに与えられた神の約束のしるしとして割礼を受けている民
- ・モーセの律法を与えられた民
- ・律法を持たない異邦人を軽蔑し、異邦人とは交わらない、食事など決して一緒にはしないなど誇り高き民

\*イエス・キリストの立場

- ・ユダヤ人としてお生まれになった
- ・ユダヤ人をも異邦人をも愛して、十字架に死んでくださった
- ・律法を廃棄するためではなく成就するために来られた

\*律法と救いの関係

- ・律法を守ることによって誰も義と認められない。律法は神の民の生活の規範であって救いの方法ではない
- ・義と認められるということは100%律法を守ることができたのと同じ意味(しかし誰一人、律法を100%守ることのできる人はいない。)

本論：

◎律法の民であるのに、結局は罪の性質ゆえに律法を頑張って守ろうとしているのに守れ

なかったユダヤ人

◎もともと律法を与えられなかった異邦人

◎イエスの十字架が成し遂げて下さったこと

・イエスの死は律法の要求を100%満たした。その結果、イエスを信じるユダヤ人はその信仰によって律法を100%守ったと認められ、律法を持たない異邦人もイエスを信じる信仰によって、100%律法を守った者と認められることとなった。ユダヤ人と異邦人の間の隔ての壁が取り除かれた！

◎今や、イエスを信じる信仰によってユダヤ人も異邦人も義とされた。——ユダヤ人と異邦人が一人の人とされた。——十字架によってどちらも神と和解させていただいた。——キリストによって、両者ともに一つの御霊において父のみもとに近づくことができる。

◎イエスを信じた異邦人は他国人でも寄留者でもない。神の民と呼ばれたユダヤ人と同じ神の民とされ、神の家族となった。

◎「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその土台です」教会の土台はイエス・キリスト。

結論：

\*キリストの教会はイエス・キリストが土台ゆえ、信者はイエスの命令に従う。キリストを中心とする共同体を建て上げる。教会の使命——私たちに与えられた神との和解を他の人にも経験していただくことと、共同体の中で互いの和解を実現していくこと。

\*使命を果たすために——教会がしっかりと一人の人になっていなければならない。かしらであるイエスはお一人で、私たちはそれぞれがなくてはならない大切なイエスのからだの部分。誰一人要らない人はいない。

\*イエスが、ユダヤ人と異邦人を一人の人にするという奇跡のみわざを成し遂げられた。そのお方が私たちの共同体を一人の人にしてくださることがそんなにむずかしいことだろうか。イエスの十字架はユダヤ人と異邦人の隔ての壁だけでなく、人種、性別、年齢、経験、社会的地位や経済格差、個人の能力差、などなどすべての隔ての壁を打ちこわして下さった。

\*私たちの共同体で隔ての壁になっているものは何か？プライド？ちょっとした誤解？自己義認？優越感？劣等感？教会の理念を真摯に知ろうとしない頑迷さ？聖書理解の違い？

\*聖書のみ言葉を共通の土台（私たちの教会の聖書理解や教会形成の土台はイエスの中心性）を持って正しく理解し、兄弟姉妹と互いに理解し合いたいという思いをもって、偏見や思い込みの壁を取り除いて互いに近づくなら、主は私たちを一人の人として下さる。しかし、それぞれが、バラバラの教会観を主張して、勝手なことを言い合うなら、隔ての壁は益々高くなり、ついには教会は行くべき方向を見失うだろう。しかし、教会が一つとなるための御業は十字架の上ですでに成し遂げられたのだ。キリストによって、ともに一つの御霊において父のみもとに近づくことができることを思い起こそう。